

2027 年度 調査研究助成事業 審査を終えて

一般社団法人 刀剣文化研究保全機構

代表理事 小坂崇氣

一般社団法人 刀剣文化研究保全機構による第 2 回（2027 年度）調査研究助成事業では、第 1 回の実施を通じて見えてきた課題を踏まえ、内容を大きく拡充し、より多くの方に応募いただきやすい仕組みを整えました。

まず、応募時期を公立館等の予算編成スケジュールに合わせて調整しました。また、調査研究助成については「研究部門」「奨励部門」の 2 部門に分け、応募者の経験や実績・取り組む研究にかかる経費に応じて選択いただけるようにしました。研究領域についても、美術史学・歴史学・考古学に加え、保存科学、民俗学まで対象を広げています。

さらに、教育プログラムや講演等の実施を支援する「教育普及促進助成」も新たに設けました。おかげさまで、調査研究助成には 8 件、教育普及促進助成には 4 件の応募をいただきました。

調査研究助成については、原田一敏氏（東京藝術大学 名誉教授、ふくやま美術館 館長）を審査委員長とする 9 名の学識経験者による厳正な審査を経て、10 月 1 日に審査結果を発表いたしました。

応募内容やその評価については原田委員長の総評にもあるとおりでありますが、私自身も、第 1 回と比較して応募内容の充実と研究計画の向上をはっきりと感じました。一つひとつの研究に込められた熱意に触れ、できることなら、そのすべてを支援したいと思うほどでした。

一方で、立ち上がったばかりの助成事業だからこそ、研究助成としての質を保ち、多くの方から信頼される制度として育てていかなければなりません。審査委員による慎重な検討の結果、4 件については、今回は採択を見送ることとなりました。

しかし、いずれも今後の発展が期待される研究です。それぞれにお送りする審査委員からのフィードバックをご確認いただき、研究計画をさらに深めたうえで、次年度以降にぜひ改めて応募いただけることを心より期待しております。

また、「教育普及促進助成」は、事務局による審査を行いました。こちらにも多様な領域、テーマから応募をいただき、刀剣を通じた教育普及活動の広がり可能性をあらためて実感しました。今回、「教育普及促進助成」の応募は、すべてを採択することができました。

いずれの部門・助成においても、今後さらに応募しやすい制度となるよう仕組みの改善を重ねるとともに、より多くの方に知っていただけるよう、周知にも努めてまいります。

なお、第1回（2026年度）の採択者の皆さまによる調査研究は、2026年12月をもって研究期間を終えます。2027年前半には、その成果を発表する機会も予定しています。審神者の皆さまにも、研究によって新たに明らかになったことや、その成果に触れていただき、刀剣研究の進展をともに見守っていただければと思います。

そして、折々にご報告しているとおり、地域の博物館・美術館での講演会や配信番組、災害時の文化財レスキューへの支援など、刀研機構では定款に掲げるさまざまな事業を少しずつ具体化しています。今後も一つひとつの活動を着実に進めるとともに、その成果や資金の活用についても、皆さまにお伝えしてまいります。

こうした活動を支えてくださっているのは、本丸刀剣保存会をはじめ、刀剣文化の未来に思いを寄せてくださる審神者の皆さまです。

刀剣乱舞をきっかけに生まれた刀剣への関心や思いを、実際の刀剣文化の研究、保存、継承へとつなげ、さらに次の世代へ渡していく。その循環をより大きく、確かなものにしていくことが、刀研機構の役割だと考えています。

あらためて皆さまのご支援に心より御礼申し上げますとともに、今後の活動にもご期待いただければ幸いです。